



二兎社公演 39

二兎社+公立劇場共同制作

作・演出

永井愛

談怪の外の鷗

出演

金田明夫 水崎綾女

内田朝陽 佐藤祐基 高柳絢子

大方斐紗子 若松武史



2014年10月2日(木) → 26日(日) 東京芸術劇場シアターウエスト ※前売開始※ 2014年8月9日(土) = ご予約: おれいす Tel.03-5468-8113

提携: 東京芸術劇場 [公益財団法人東京都歴史文化財団] お問い合わせ: 二兎社 Tel.03-3991-8872 <http://www.nitosha.net>



金田明夫 水崎綾女 内田朝陽 佐藤祐基 高柳絢子 大方斐紗子 若松武士

2014年10月2日(木)→26日(日) 東京芸術劇場 シアターウエスト

10月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
14時			●	●		●	●	●		●	●	●		●	●		●	●		●	●	●		●	●
19時	●	●			休演							休演		●	●		●	●		●	●	●		●	●

開場は開演の30分前。
※10月8日(水)は撮影用カメラが客席に入ります。※ポスト・パフォーマンス・トーク＝決定次第、ホームページで紹介しします。本公演のチケットをお持ちの方は、ご観覧できます。

◎前売開始：2014年8月9日(土)

◎料金 (全席指定・消費税込み)

一般.....5,600円

25歳以下割引.....3,000円 (枚数制限あり)
(要証明書提示。ふれいす・東京芸術劇場ボックスオフィス・チケットぴあ店舗にて取り扱います)

中高生割引.....1,000円 (枚数制限あり)
(要学生証提示。ふれいす・東京芸術劇場ボックスオフィスにて取り扱います)

当日券.....開演の60分前より販売。

★車椅子席のご案内

ご利用希望の方は3日前までに、ふれいす(Tel.03-5468-8113 平日11時～18時)にお申込みください。

★キッズルームのご案内

ご観劇日1週間前までに、下記まで要予約。(定員あり)
生後4ヵ月～1歳児＝2,160円 2～6歳児＝1,080円
お申込・お問い合わせ：芸劇キッズルームミュージズ Tel. 03-3981-7003

☆東京以外の公演予定 (チケットのお問い合わせは各会館へ)

9月28日(日)埼玉・富士見市民文化会館キラリふじみ / 10月29日(木)愛知・穂の国とよはし芸術劇場PLAT / 11月1日(土)宮城・えぞこホール(仙南芸術文化センター) / 11月3日(日)愛知・パティオ池鯉鮒(知立市文化会館) / 11月8日(土)兵庫県立芸術文化センター / 11月13日(木)栃木・足利市民プラザ / 11月15日(土)滋賀・びわ湖ホール / 11月18日(火)山形・川西町フレンドリープラザ / 11月20日(木)新潟市民芸術文化会館(りゅうとびあ) / 11月22日(土)岩手・盛岡劇場 / 11月24日(日)福岡・北九州芸術劇場 / 11月26日(日)鳥根県立芸術文化センター「グラントウ」 / 11月29日(土)長野・まつもと市民芸術館 / 12月6日(土)神奈川・湘南台文化センター / 12月9日(火)北海道・北広島市芸術文化ホール / 12月11日(木)北海道・たかすメロディーホール

◎お問い合わせ

二兎社 Tel.03-3991-8872 (平日10:00～18:00)
http://www.nitoshia.net

◎チケット取り扱い

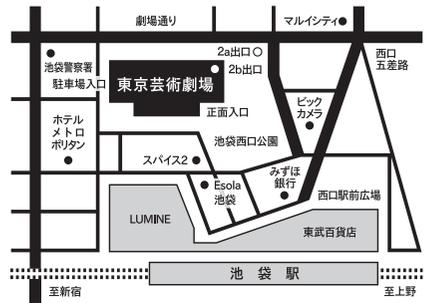
ふれいす.....03-5468-8113 (平日11:00～18:00)
※ただし、8月9日(土)は10:00～18:00受付
http://www.place-net.co.jp

東京芸術劇場.....0570-010-296 (休館日を除く10:00～19:00)
ボックスオフィス
http://www.geigeki.jp/t/ (PC)
http://www.geigeki.jp/i/t/ (携帯)

チケットぴあ.....0570-02-9999 (Pコード: 437-474)
http://pia.jp/t/ (PC&携帯)

e+(イープラス).....http://eplus.jp/nitoshia/ (PC&携帯)
※パソコン画面・Famiポートで座席が選べます。

ローソンチケット.....0570-084-003 (Lコード: 37217)
0570-000-407 (オペレーター対応)
http://l-tike.com (PC&携帯)



東京芸術劇場
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-8-1 Tel.03-5391-2111
[アクセス] JR、東京メトロ、東武東上線、西武池袋線池袋駅西口より徒歩2分。
池袋駅地下通路の2b出口で直結しています。

先日、団子坂で歩く鷗外を見かけました。ちょっと意外な印象でした。げっせりと痩せ、身体は前のめりに力なく傾き、そのくせ妙に早足なんです。タタタタとつんのめるようにやって来ては、すぐタタタタと消えてしまふ。お化けか？ いえ、確かに生きています鷗外です。鷗外記念館の小さなモニターの中にですけど。59歳、死の10ヵ月ほど前の姿です。訪欧から帰国した皇太子(後の昭和天皇)を横浜に出迎えたら、撮影中のニュース映画にたまたま写ってしまつたものらしい。鷗外は陸軍軍医の最高職を勤め上げた高級官僚でもあったので、公務における「コマですね。参列者に混じって歩く鷗外には、撮られているという意識がない。そのせいか、カメラに向かってポーズしたときのような威厳が感じられません。身体も弱ってたんでしょね。何せ、前のめりのタタタタです。でも、この歩き方は晩年に限つたものではないのかも。鷗外といえば、胸を張り堂々と歩くイメージでしたけど、ひょっとして若い頃から「前のめりのタタタタ」だったような気もしてくるんです。だって、猛烈なスケジュールだったはずですよ。朝は軍服にサールを下げた陸軍省に赴き、日暮れて帰れば、「パッパ！」と飛んでくる子どもたち、絶

え間ない来客。執筆はどうしたって深夜になり、書齋の灯が消えるのは明け方。精神的にはさらにハードだったでしょうね。日本が日清・日露戦争を経て第一次世界大戦に向かうとする時代に、軍職と文学を両立させなきゃならなかったのは。富国強兵を目指す国で必ず、言論・思想・表現の自由を抑圧するじゃないですか。現に鷗外も小説の発禁処分を受け、憤慨してましたよね。同時に彼は、国家に絶対的な忠節を誓う軍職者でもありました。この難しいバランスをよくも生き抜いてみせたものです。「ねえ、本音はどうだったの？」と、聞きたくなつてしまいます。表現者の端くれとして、特に最近そう思います。答えが返ってくるはずもないので自分で書いてみることにしました。ということで、鷗外が最も危ういバランスを生きたと思われ、5ヵ月間の話です。作・演出 **永井愛** 劇作家・演出家、二兎社主宰。主な作品①「こんばんは、父さん」(シングルマザーズ)「かたりの椅子」(歌わせた男たち)「書く女」(片づけた女たち)「こんには、母さん」(ら抜き殺意「カズオ」) 紀伊國屋演劇賞個人賞・鶴屋南北戯曲賞・岸田國士戯曲賞 読売文学賞朝日舞台芸術賞秋元松代賞などを受賞。

美術 大田創 照明 中川隆一 音響 市来邦比古 衣裳 竹原典子 舞台監督 増田裕幸 演出助手 鈴木修
ヘアメイク 清水美穂 宣伝美術 マッチアンドカンパニー+森井耕作 宣伝写真 須藤秀之 化粧品協力 *Dei Cosme*
票券 渡邊妙子(ふれいす) 制作 安藤ゆか 山田西音
提携：東京芸術劇場【公益財団法人東京都歴史文化財団】 助成：芸術文化振興基金

二兎社公演 ③ 鷗外の怪談

二兎社+公立劇場共同制作
富士見市民文化会館キラリふじみ / パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)
盛岡市文化振興事業団(盛岡劇場) / えぞこホール(仙南芸術文化センター)